



「大毎東日主催日・本・新・八・景」（「日本新八景」の懸賞記事(候補地・賞品・規定等)）
『東京日日新聞』昭和2年6月7日朝刊 画像提供：毎日新聞社

「『この好機に吾が日本平を』必勝を期して起こった有度村草薙青年団」（昭和2年5月12日東京日日新聞静岡版）の新聞記事にあるように、郷土愛に燃えた地元「有度村草薙青年団」が中心となり、「日本平保勝会」を設立し、周辺市町に活動を開始し、投票に奔走した。

「日本平」保勝会設立趣旨書

「今回東京日日新聞社及び大阪毎日新聞社主催で日本新八景を募集する事になりましたので私達は玄玄に當有度山の高地「日本平」を平原に投票して全国的に紹介せんとするものでございます 私達はこの両新聞社の企てが「日本平」を紹介する絶好の機会と信じまして「日本平保勝会」を起し有度山を繞る関係村民の御賛同を得てこの有意義なる然も又となき機会の企てを御後援賜はりたいと存じます 御承知の通り「日本平」は東に靈峰富士を望み眼下に駿河湾を見下し前面久能山の嶮を控へ西すれば静岡市及安倍川の河口より御前崎の先端にあたり遠望は實に筆紙に盡し難く昨年徳富蘇峰先生の御来遊の砌り「眞に世界の絶景なり」との讃辞を與へられた事も宜なる哉であります 必ずや諸賢の御後援によりては平原中の第一位の栄冠も我に歸する事の無謀なる算段でないと思ひます 何卒郷土の勝地を紹介する絶好の機会をお含み下さいましてこの保勝会を御後援下さいます様お願い申し上げます」

平原としては日本一だ
郷土愛に燃ゆる平野代議士

「日本平」投票に最も熱心に奔走している憲政会の平野光雄代議士は有度村耕地整理組合長栗田豊一郎氏とともに十日午後本社支局を訪問し必勝計画について打ち合せる處があったが「日本平」につて語る『未だ余り世間に知られていないが一度行った事のあるものは誰でもその絶景に全く驚く位だ東にはいはゆる世界一の名山富士の霊峰を仰ぎ東南には三保の松原を抱く清水湾一帯からはるかに大島三原の煙をのぞむ事が出来る今まで世間に知られないのが不思議な位である僕は郷土に対する義務としてどうしても當選させなくてはならぬ松本知事も先般同地に遊んで全くいいところだと景色の話の出る度に毎に賞讃している何といつても平原としては日本一である』

東京日日新聞 (日曜) 昭和二年五月二十日 (八)

静岡版

「恵まれた本縣の
興味ある新八景戦
いよく迫る緒切期日前に
虚々實々の作戦」

あらゆる風景に
「日本平」投票
必勝を期して起つた
有度村草薙青年團
交々

「この好機に
吾が日本平を」
必勝を期して起つた
有度村草薙青年團
交々

新八景候補地一帯の風景
私達は、この好機に、吾が日本平を、必勝を期して起つた、有度村草薙青年團、交々、

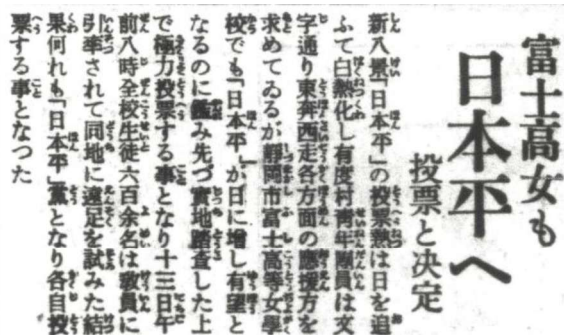
日本平投票の好機に吾が日本平を、必勝を期して起つた、有度村草薙青年團、交々、

千本松原と
静浦は合同して
運動するようになった
教育家として
至上の名譽
文部大臣から表彰された
今はさき河内閣
文部大臣から表彰された
今はさき河内閣

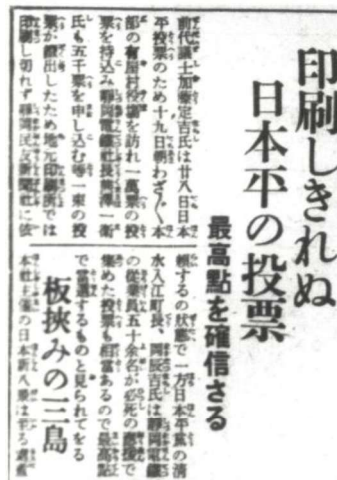
千本松原と
静浦は合同して
運動するようになった
教育家として
至上の名譽
文部大臣から表彰された
今はさき河内閣

千本松原と
静浦は合同して
運動するようになった
教育家として
至上の名譽
文部大臣から表彰された
今はさき河内閣

『この好機に吾が日本平を』必勝を期して起こった有度村草薙青年團 (昭和2年5月12日東京日日新聞静岡版)



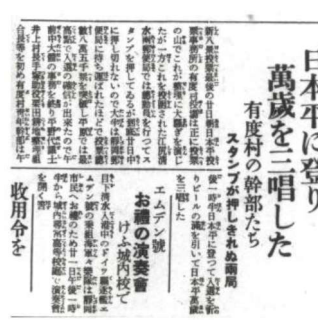
富士高女も日本平へ投票と決定（昭和2年5月15日東京日日新聞静岡版12面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



印刷しきれぬ日本平の投票（昭和2年5月20日東京日日新聞静岡版12面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



白熱化した新八景運動（昭和2年5月17日東京日日新聞静岡版8面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



日本平に登り万歳を三唱した有度村の幹部たち（昭和2年5月21日東京日日新聞静岡版12面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



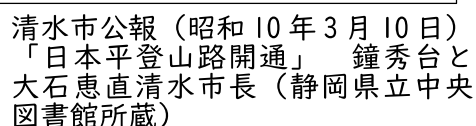
審査圏内入選数では全国第一位（昭和2年6月7日東京日日新聞静岡版8面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



入選数では全国第一の名誉（昭和2年7月7日東京日日新聞静岡版8面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）

(七) 號四十六百二千八万一第 (可謂金銀三第) 聞新日日京東 (日曜水) 日六月七年二和昭

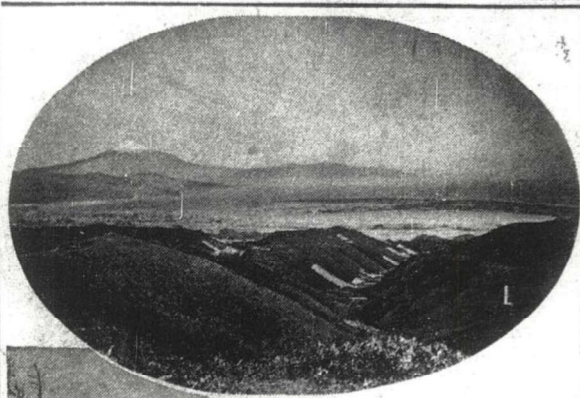
画像提供：毎日新聞社
昭和2年7月6日東京日日新聞「日本百景」平原の部に日本平が入賞



清水市公報（昭和 10 年 3 月 10 日）日本平登山路開通

「靈峰富士を正面に仰ぐ日本平は其の雄大端麗なる風光に依って近來著しく名声を高めつつあるが、本市では未だ頂上に至る自動車道路のなかったのを遺憾とし、省線清水駅より龍華寺線を連絡して直ちに自動車を駆って日本平頂上に至る遊覧コースの開拓を計画し昭和 7 年 12 月工事に着手爾來二年有余の日子を費やして先月末日遂に此の大事業の完成開通を見るに至った。同路線は総延長 3 千 9 十 4 間 1 分幅員二間半総工費は 9 万 2 千 8 百余円である。

尚お本市では、新路線に沿って、千変万化する眺望のうち特に優れた地点四個所の展望台及び其の名称の選定を本市に縁故深き文豪徳富蘇峰先生に依頼中望岳台吟望台鐘秀台超然台の命名を得たので先般先生の筆になる標柱を建設した。（写真は建設せられたる展望台標柱）」



雄大な景観美

日本平の偉容整ふ

蘇峰翁により四名所選定

ドライヴ・ウェイの完成近し

蘇峰翁を中心とした大規模な景観美を創出する計画が、日本平の偉容を整え、蘇峰翁により四名所選定され、ドライヴ・ウェイの完成近し。

蘇峰翁を中心とした大規模な景観美を創出する計画が、日本平の偉容を整え、蘇峰翁により四名所選定され、ドライヴ・ウェイの完成近し。

蘇峰翁を中心とした大規模な景観美を創出する計画が、日本平の偉容を整え、蘇峰翁により四名所選定され、ドライヴ・ウェイの完成近し。

幹部に不満を... 市バス... 蘇峰翁... 景観美... 偉容... 整ふ... 蘇峰翁により四名所選定... ドライヴ・ウェイの完成近し...

蘇峰翁を中心とした大規模な景観美を創出する計画が、日本平の偉容を整え、蘇峰翁により四名所選定され、ドライヴ・ウェイの完成近し。

雄大な景観美日本平の偉容整ふ蘇峰翁により四名所選定
(昭和10年2月2日東京日日新聞静岡版12面、静岡市立中央図書館所蔵マイクロフィルム)



名勝指定範囲（特別地区：ピンク色、保全地区：緑色）と徳富蘇峰選定4つの眺望地点

ぼうがくだい

望嶽台：「山の中腹どころで真正面に秀峰富岳を望み足下に明媚な清水港を俯瞰し、遊覧客が先づその第一歩を留むる所」と当時の新聞（昭和 10 年 2 月 2 日東京日日新聞静岡版 12 面）に掲載。現在の、日本平登山道（旧道）の東斜面に舌状に突き出した台地上にあり。登山道（旧道）に接しており、遠くに富士山と眼下に清水市街と清水港を望む。」

望嶽台写真

ぎんぼうだい

吟望台：「清水よりの山頂で、富士の景観はもとより伊豆箱根の連山から愛鷹山の遠望、さては南アルプスの銀嶺も遙かにその雄姿を現し三保を取り入れて明鏡清見潟の長汀曲浦もさながら箱庭の如き眺め、吟望台の名に背かず。」と当時の新聞（同上）に掲載された。現在は、日本平公園夢テラス展望回廊付近の広場にあり。蘇峰はその広場から霊山の雲表に浮かび、三保の松原が駿河湾に腕を伸ばして清水港を抱き、伊豆連山は呼べば応えん情景に、思わず藤田東湖の「秀でては不二の嶽と為り、巍々として千秋に聳ゆ」を口ずさみ、わが大和民族の国民性は、これの霊山に由って代表すると、感嘆を禁じえなかった。

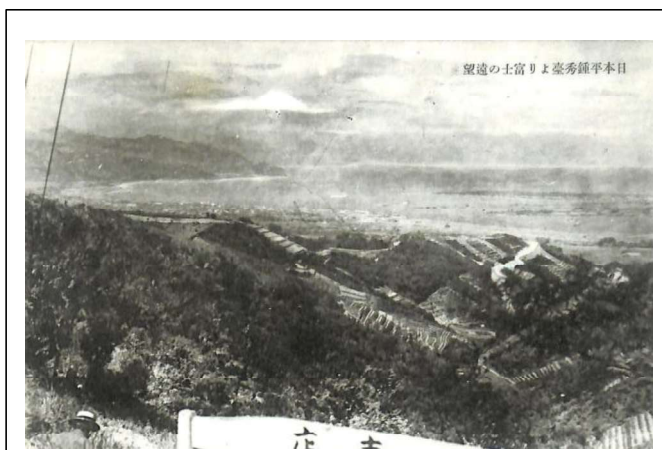


「日本平吟望台付近」（静岡県立中央図書館所蔵）静岡県の絵葉書

しょうしゅうだい

鐘秀台：「久能よりの山頂で、前面には富士・三保の美を擁し、背面は眼下に久能の峡谷を望み、静岡の市街を遠望し、更に遠く駿河湾の碧海の彼方に、御前崎白亜の灯台が絵のように霞む」と当時の新聞（昭和 10 年 2 月 2 日東京日日新聞静岡版 12 面）に掲載された。

現在は、公園区域外にあり、崖近く行くことは困難な場所にある。

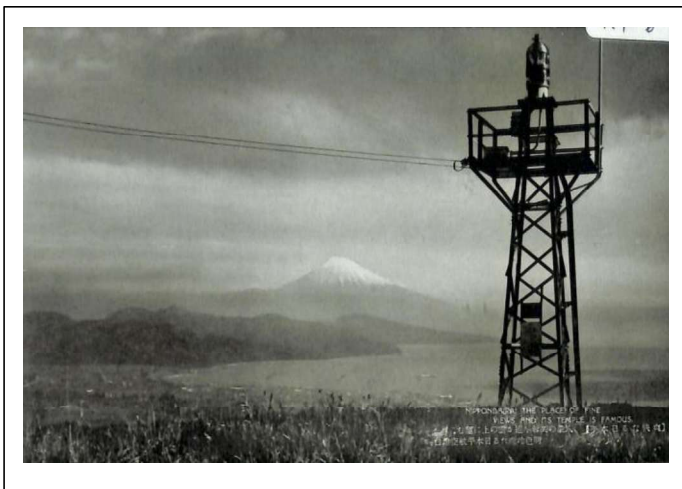


日本平「鐘秀台」より富士の遠望（静岡県立中央図書館所蔵）
静岡県の絵葉書

ちょうねんだい

超然台：「日本平の最高峰で吟望台と鐘秀台の三角の頂点に立ったところ、四顧さえぎるものなき雄大な眺望は、正に超然台の名にふさわしい」と、当時の新聞（同上）に掲載されている。また昭和48（1973）年3月1日「民友」には「以前は、同場所に、燃料に枯れ枝を拾い、食料に木の実、草の根を求めるものあったが、今はほとんど無く、兎も通れない荒蕪であったが、一度頂きに立てば、霊山は固より、遠くは南アルプス連峰に至るまで展望自在。御前崎、石廊崎に囲まれた駿河湾を眼下に静岡、清水の市街、竜爪山、安倍、大井の両川、天城、箱根の山々はすべて指顧の中である。」とその景色を評している。

現在は、公園区域外の私有地にあり、突出した丘陵で南面が崖地となっており、公園区域との間に深い谷があるため、公園からのアクセスもなく、行くことは困難となっている。



「超然台」に建てられた日本平航空灯台（昭和10年10月点灯）
（静岡県立中央図書館所蔵）静岡県の絵葉書

3 日本平の観光開発

観光と結びついで日本平の開発は、大正・昭和を迎えてからである。特に昭和6年（1931）6月12日には、日本平に茶店が多くなりすぎたため、取り締まりと名勝の指定が県知事に陳情され、昭和7年（1932）1月26日に村松、駒越、草薙、馬走が名勝の仮指定（史蹟名勝天然紀念物保存法 大正8年（1919）に基づく）を受ける。旧都市計画法（大正8年）に基づく風致地区指定は、昭和8年（1933）。昭和9年（1934）3月には、失業対策として日本平登山道（旧道日本平線）が開通し、昭和12年（1937）4月には日本平が都市計画公園として内閣から許可される。婦人や子供が登りやすい「東日コース」が選定され、日本平をハイキングで訪れる人が増加した。

清水市失業救済事業に

日本平を開鑿

廿九日の市會に於て決定せん

工費 十二萬圓 日本平

森信吾氏選米

司法官定期異動

一り成おまさ宮照

平本日く輝に光榮

てに給め衣羽保三（左）てに守衛（右）【朝日新聞】



照宮さまお成り栄
光に輝く日本平
（昭和10年4月
5日東京日日新聞
静岡版12面、静
岡市立中央図書館
所蔵マイクロフィ
ルム）

日本平を開削（昭和8年7月26日静岡民友新聞1面、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）

秋の日

景観日本平を中心ハイキングコース

に人々実地踏査の首尾上々

選挙気分迫り
候補陣立は競選主義

札付ブローカー
黒表を作成

不在投票
時局對策講演
明年一月縣で開

鐵壁・民國

日本平の景勝に

東日コース選定

けふ賞選隊踏査に出發

日本平の景勝に東日コース選定（昭和10年9月11日東京日日新聞静岡版10面、静岡市立中央図書館所蔵マイクロフィルム）

景観日本平を中心ハイキングコース（昭和10年9月13日東京日日新聞静岡版12面、静岡市立中央図書館所蔵マイクロフィルム）

（太平洋戦争後）

太平洋戦争後は、昭和25年（1950）10月10日に毎日新聞社による「日本観光地百選 平原の部」で日本平が第一位となって以来観光客が増大する。投票運動は静岡市、旧清水市、旧安倍郡有度村役場を中心に行われ、静岡鉄道株式会社などが協賛した。旧清水市観光協会と静岡鉄道株式会社共催で中秋の名月に『日本平観月会』を開催するという投票期間中の記

事（昭和 25 年 9 月 17 日毎日新聞静岡版 6 版(4)、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）には「名月を鑑賞するとともにネオンに彩られた静岡、清水両市街の夜景を心いくまで観賞することになった（中略）地元民を通じ日本平の真価を広く宣伝しようとするもの」とあるように、官民一体となって投票運動に尽力した。

昭和 25 年の日本観光地百選平原の部第一位では、他の部門の観光地とともに、「観光地百選シリーズ」記念切手（24 円：清水港と富士山、8 円：茶畑と茶摘み娘と富士山）が発行された。



投票は日本平へ！観光地百選（昭和 25 年 9 月 14 日毎日新聞静岡版 6 版静岡 3、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



堂々首位を確保（昭和 25 年 9 月 17 日毎日新聞静岡版 6 版(4)、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）

追込み必勝の固め（昭和 25 年 9 月 15 日毎日新聞静岡版 6 版(4)、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）

観光静岡の面目躍如名勝七カ所、堂々の入選（昭和 25 年 10 月 11 日毎日新聞静岡版 7 版(4)、静岡県立中央図書館所蔵マイクロフィルム）



昭和 32 年（1957）には久能山とを結ぶロープウェイが建設され、同年 6 月には NHK のテレビ塔からの放送がはじまった。

こうした動きに対し、同年 7 月 1 日には、久能山下根古屋地区を含んで仮指定が継続され、昭和 34 年（1959）6 月 17 日に日本平が名勝に指定される。

また名勝としてばかりでなく、昭和 12 年（1937）の時点で日本平山頂及び周辺部 88.5ha が、都市計画法に基づく「日本平公園」として都市計画決定されていること、またその後、日本平周辺地域においては、文化財保護法なども含め、いくつもの法規制によって一定の保護保全の体制が確立されていることを示しているとともに、それぞれの目的に沿った整備事業が想定され、その際には相互の調整が不可欠になる。過去に検討されてきた幾度かの整備計画構想はそれを示すものである。

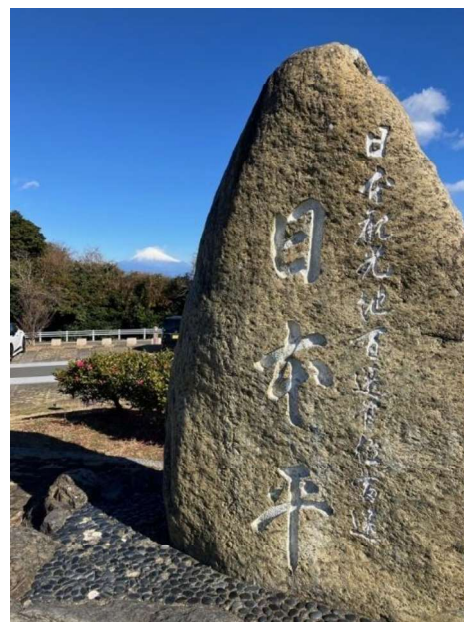
昭和 30 年代に入ると観光施設の整備が相次ぎ、その後交通網の整備やレクリエーション需要の拡大に支えられ、観光客の増大が続き、昭和 52 年（1977）にピーク（約 280 万人）を迎える。

既に昭和 32 年（1957）の仮指定の時点には、日本平と久能山とを結ぶロープウェイの開通、NHK テレビ日本平放送所の設置及び民間テレビ放送会社による土地買収、静岡県による公園整備のための用地買収などの日本平をめぐる社会状況が大きく変化したが、文化財指定によって日本平の優れた価値を大規模開発行為から守ろうとしたものであり、その意味で指定の役割は大きい。

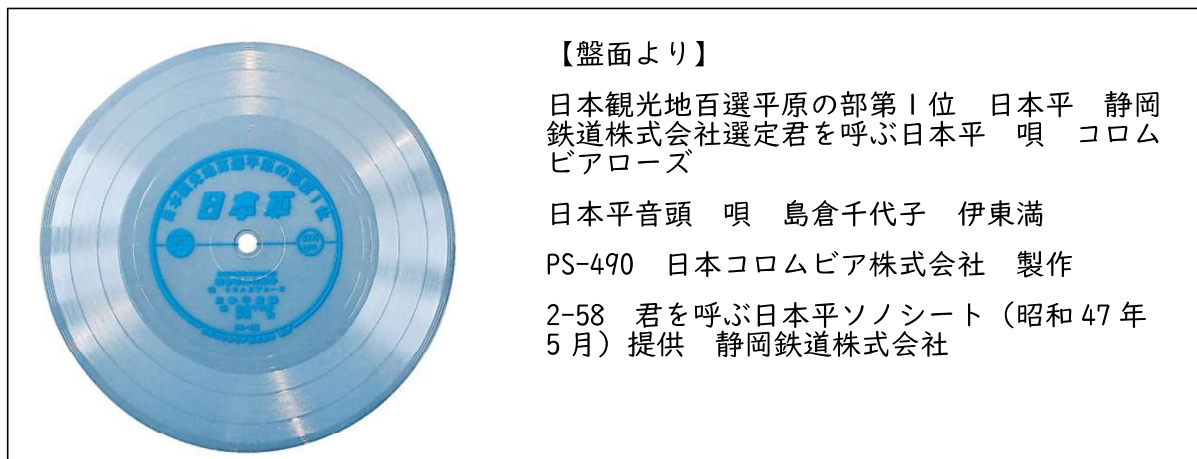
昭和 36 年（1961）には、「君を呼ぶ日本平」や「日本平音頭」などの日本平の歌や踊りが作られた。「当時バスガイドが歌って、観光客を喜ばせた」というコメントがユーチューブに残る。



日本平登山道路開鑿記念碑
（昭和 9 年建立）（清水市長）



昭和 25 年日本観光地百選首位



【盤面より】

日本観光地百選平原の部第1位 日本平 静岡
鉄道株式会社選定君を呼ぶ日本平 唄 コロム
ビアローズ

日本平音頭 唄 島倉千代子 伊東満

PS-490 日本コロムビア株式会社 製作

2-58 君を呼ぶ日本平ソノシート（昭和47年
5月）提供 静岡鉄道株式会社

静岡市・清水市観光協会推薦、静岡鉄道株式会社選定、日本コロムビア製作・提供

昭和47年（1972）からは、日本平山頂部の適切な維持管理組織として、「日本平県立自然公園運営協議会」が発足し、令和7年度（2025）現在もその活動を続けている。

行政と民間業者で組織された団体であり、日本平関連の開発事業等についても、情報交換、連携推進、地元意向把握等の面で重要な役割を担っている。また、山頂部での実際の維持管理業務等も行っており、名勝の保全にも直結している。

こうした歴史的社会的な状況の中で、最も重要な日本平の本質的価値は、富士山を眺める好適地であるばかりか、四周の展望を愛でる場所でもあり、しかも複数の展望地点がそれぞれ眺望を構成してきた事実にある。そこで、周遊しながら展望するという日本平の特性が自ずと理解される。

都市部に隣接する日本平は、裾野にはみかんや茶の農地が広がり、里山的な性格も併せ持って、人々の生活と密着してきている。頂上付近に県営駐車場整備され、平成16年（2004）に日本平パークウェイが無料化され、観光の面でも、市民にも一層親しい日本平に変化してきた。

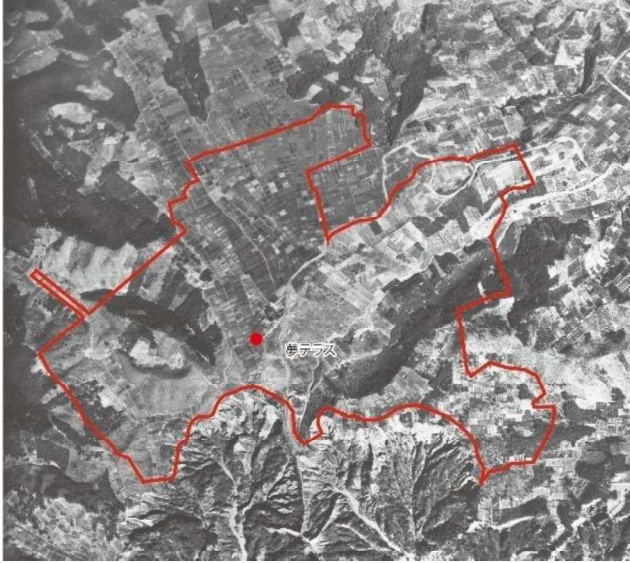
そして、平成17年（2005）、乱立していたテレビの送信塔が地上波デジタル放送開始に伴い除却され、デジタル鉄塔1基に集約された。

平成22年まで、名勝日本平の保護手法を従来の「凍結的保存」に準拠してきたため、山頂部の開発や改変は進まなかった半面、計画的な土地利用の誘導や整備が行われてこなかったため、観光施設の撤退や農業の衰退に伴い、園内景観の荒廃が見られるようになってきた。

平成19年（2007）、「日本平公園基本計画」を策定。平成22年（2010）、日本平保存管理計画策定。

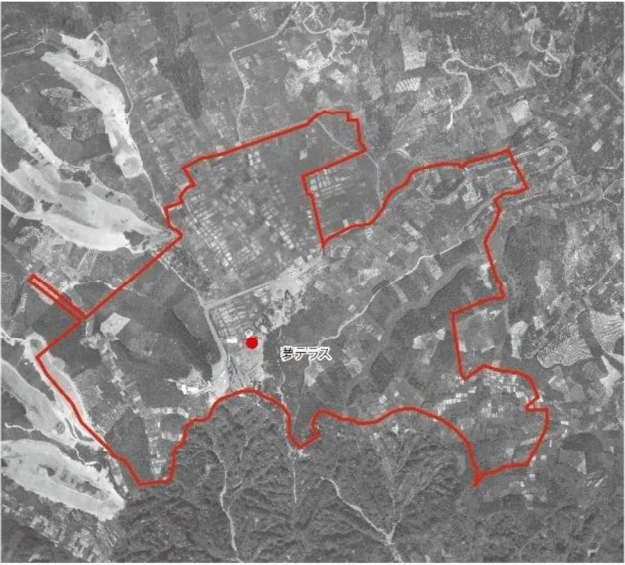
4 ＜空中写真から見る地歴＞

[昭和 21 年]

空中写真	
現況重図	
履歴	日本観光地百選平原の部Ⅰ位（昭和 25） 日本平県立（自然）公園選定（昭和 26）
概要	・ 山頂部敷地のほとんどが農地。地図上では茶畑となっているが、写真からはその他作物との混在をみることができる。 ・ 山頂部周辺で現在、樹林地となっている箇所にも農地が多く見受けられ、この時代の日本平では遮るものがほとんどなかったと推測できることから、記録のとおり優れた眺望地であったことが伺える。 ・ 道路として確認できるのは、清水側の旧道から現駐車場、川崎家前を通り、NHK鉄塔からロープウェイに下る道が確認できる。 ・ 施設は、川崎家前の山頂部入口箇所に、それらしきものを見ることができる。

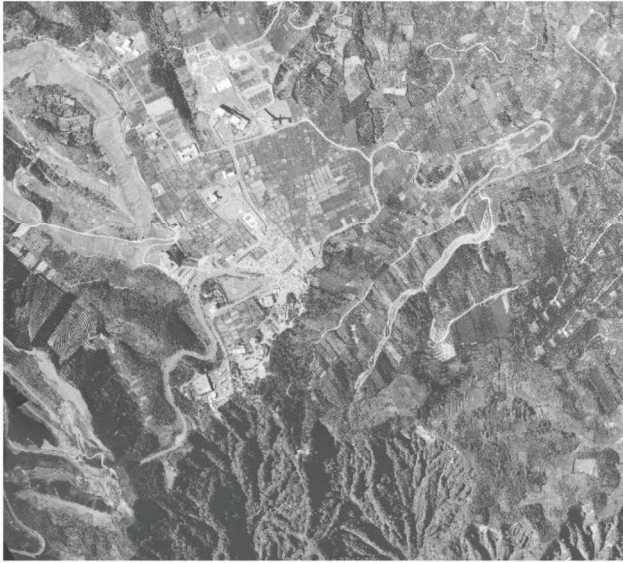
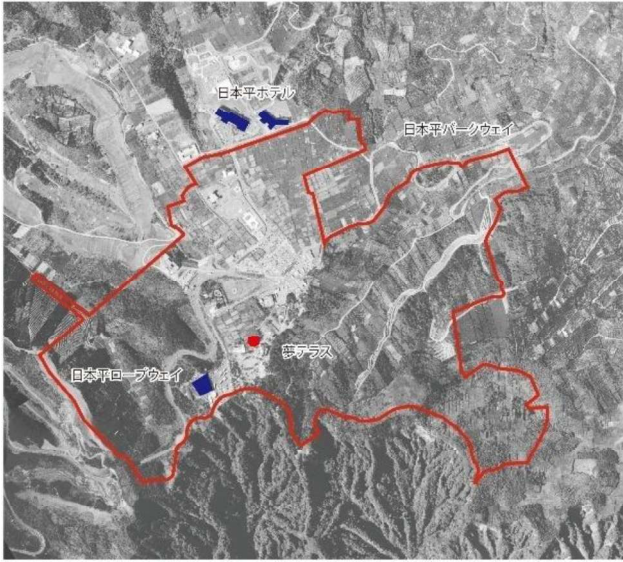
空中写真から見る地歴（昭和 21 年）

[昭和 36 年]

空中写真	
現況重図	
履歴	清水屋・NHK（昭和 30） ロープウェイ・川崎家・野鳥の家・静岡放送（昭和 32） 日本平ゴルフ場（昭和 36）
概要	・山頂部の開発が見られる。旧道から現在のパークセンターに至る道路と、その中間の現在の駐車場位置に駐車場らしき施設が見られる。 ・山頂部付近に広場らしき空間が見られ、これと駐車場間に建物らしき施設が点在している。 ・日本平ホテル東側の樹林が伐採されており、その後の写真から推察すると新たな樹林のための施業であったものと推察される。 ・野鳥の家北側に樹林地が見られるが、聞き取りからマツ林であったものと推察される。

空中写真から見る地歴（昭和 36 年）

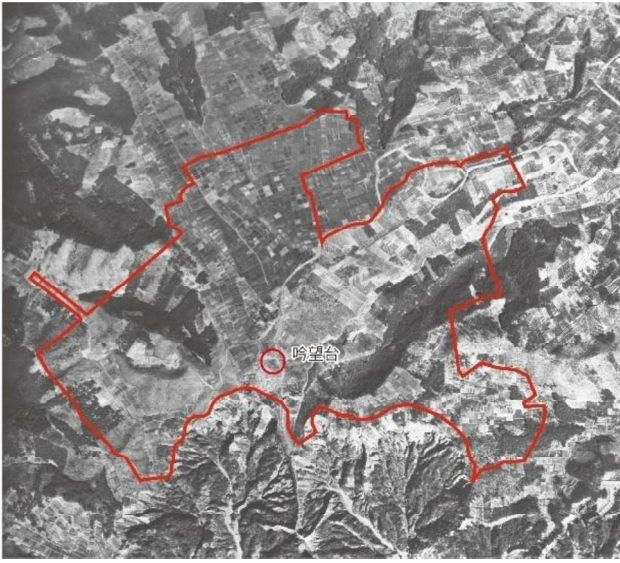
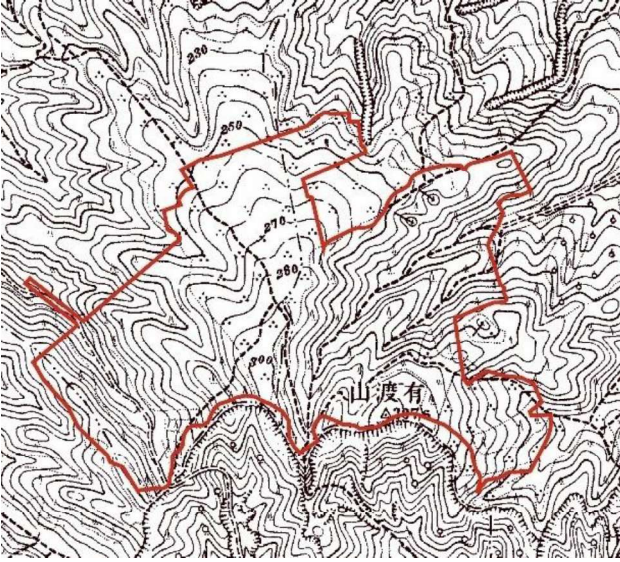
[昭和 44 年]

空中写真	
現況重図	
履歴	日本平ホテル本館・同美術館・日本平パークセンター（昭和 39） 日本平ホテル別館・日本平お茶会館（昭和 42） テレビ静岡（昭和 43）／パークウェイ（静岡側：昭和 39 清水側：同 47）
概要	・日本平ホテルの建設によって農地が大きく減少。ホテル芝生広場の範囲は、聞き取りからゴーカート等のレジャー施設であったようだ。 ・駐車場も概ね、現在の範囲にまで拡張しており、吟望台からお茶会館に至る範囲が開発され、建物が点在する様子が見て取れる。 ・但し、野鳥の家北側の農地は、この時点でもわずかに残っている。 ・静岡側パークウェイが開通したことで、清水側旧道と連続し、アクセス性が飛躍的に改善された様子がわかる。 ・外周部では、さかんに樹林が成されている様子がわかる。

空中写真から見る地歴（昭和 44 年）

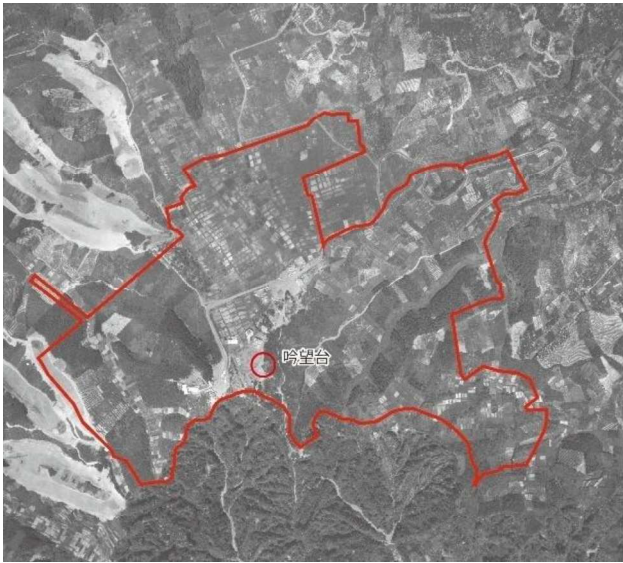
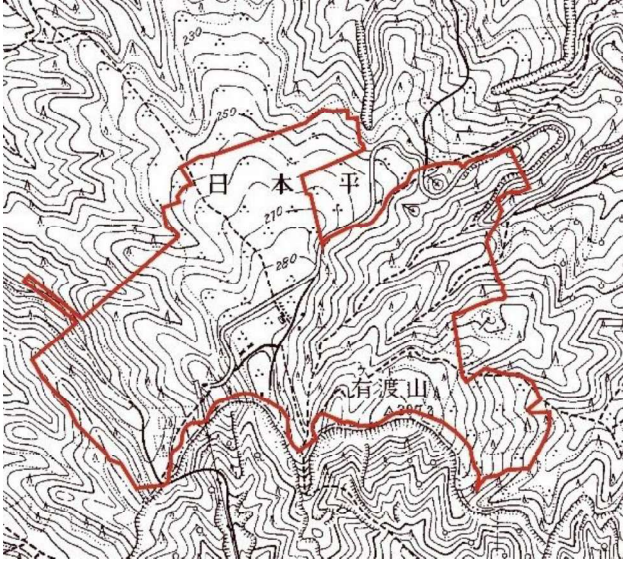
<山頂の変遷>

[昭和 21 年]

空中写真	
図歴	
概要	・吟望台や鐘秀台周辺では、ほとんど樹林が見られず四周眺望の地であったことが伺える。 ・更に東展望台から鐘秀台に至る斜面地にも樹林は見受けられない。 ・その他の大半が茶畑と思われる農地であった。 ・パークセンター駐車場位置では、山頂部から連続する道路が見られ、地形的にも山頂から下る一連の斜面地であったものと推察される。

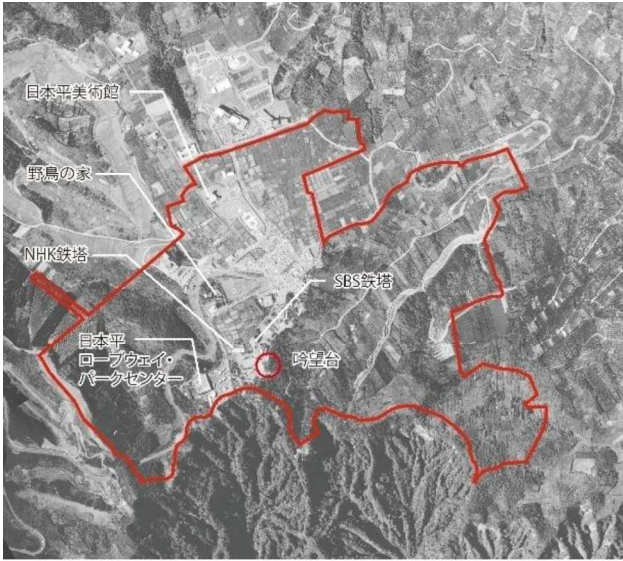
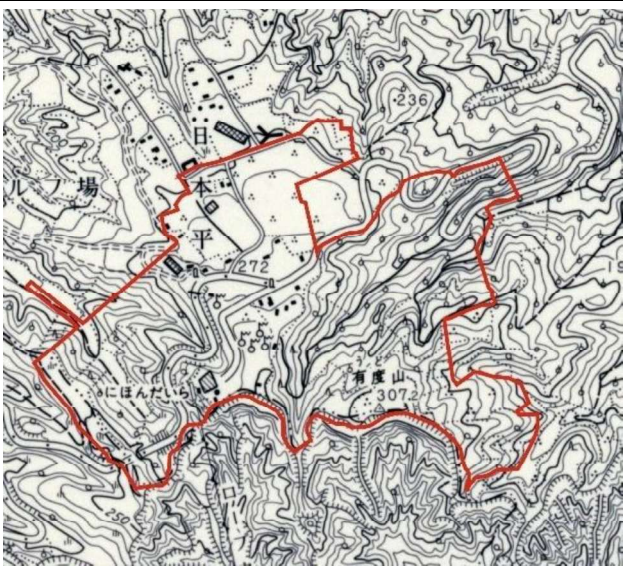
山頂の変遷（昭和 21 年）

[昭和 36 年]

空中写真	
図歴	
概要	・吟望台や鐘秀台周辺の樹林の成長が見られる。樹種は不明（現在はコナラを主体とした雑木林） ・デジタル塔付近に広場風の空地が見られ、その北東側（富士山方向）に2棟の建物が連なって見える。 ・川崎家前の駐車場から山頂部への入口らしき園地が、ほぼ現在の形状で見ることができる。 ・ロープウェイに至る道路と駐車場が整備されている。

山頂の変遷（昭和 36 年）

[昭和 44 年]

空中写真	
図歴	
概要	・ 吟望台や鐘秀台周辺及び東展望台に至る斜面地の樹林が、ほぼ現況の状態になりつつある。 ・ 静岡側パークウェイの開通により、現在の駐車場付近は全て駐車場として開発。また、野鳥の家東側の梅林やテレビ鉄塔の建つ範囲が広場園地として開発されている。 ・ 新たな建築物が建つと同時に、いくつかの建物が撤去され空地化。 ・ 山頂部ではテレビ鉄塔北側農地が最後まで残り、この範囲が耕作放棄地となって現在はササヤブが繁茂している。

山頂の変遷（昭和 44 年）

昭和 25 年（1950） - 昭和 44 年（1969）

- ・山頂部の開発がはじまる。

- ・静岡鉄道株式会社を中心に山頂の観光開発が進められる。昭和 25 年（1950）5 月に「久能山・三保めぐり」（のちに「日本平・久能山・三保めぐり」）の定期遊覧バス、平成 26 年（1951）4 月に路線バス日本平線の営業開始。しかし日本平と久能山は屏風谷と呼ばれる断崖によって隔てられ、両者を回遊するには大幅な迂回が必要であり、観光地としては不便な地理状況にあった。そのため、静岡鉄道株式会社はロープウェイの建設を計画し、昭和 32 年（1957）5 月に全長 1065 メートルの「日本平ロープウェイ」が開通し定員 26 人のゴンドラで日本平と久能山を 6 分で移動できるようになった。

静岡鉄道株式会社は、ロープウェイの完成とともに、バス路線の増強、休憩施設や駐車場の整備を急ぐなど観光客の受け入れ体制を整え、昭和 35 年（1960）3 月に国鉄が東京―静岡間の日帰り準急「日本平号」の運転を開始すると 50～60 両もの観光バスを稼働しなければならないほどの大盛況となった。昭和 36 年（1961）2 月には、第 2 回静鉄観光まつりにおいてコロムビア・ローズ（初代）の「君を呼ぶ日本平」（河西新太郎作詞、米山正夫作曲）と島倉千代子・伊東満による「日本平音頭」（池田誠一郎作詞・岩瀬ひろし補作、上原げんと作曲）が発表され、観光誘客を盛り上げた。

昭和 39 年（1964）3 月、静岡県道路公社によって日本平パークウェイが開通。これに合わせて静岡鉄道株式会社では日本平山頂部に鉄筋コンクリート三階建て、総面積 1620 m²の建屋に収容人員 700 人の大食堂をはじめ地元名産品店や休憩室、屋上展望台などを備えたレストハウスである日本平パークセンターをオープンし、観光客の受け入れ体制を整えた。観光客を受け入れるさまざまな施設の整備によって、日本平は一躍、年間 200 万人を超える観光客が訪れる観光地に発展した。

（参考：「静鉄グループ百年史 過去から未来へのメッセージ」）

昭和 49 年（1974） - 昭和 53 年（1978）

- ・日本平ホテルができる。・日本平美術館ができる。・日本平パークウェイができる
- ・テレビ放送鉄塔が複数建つ。・お茶会館、月日星、川崎屋がたつ。

昭和 54 年（1979） - 昭和 58 年（1983） 山頂部

- ・テレビ放送用鉄塔が 5 基たつ。・ロープウェイ駐車場に大型バスが多数停車している。・日本平ロープウェイのパークセンターがたつ。

平成 27 年（2015）、山頂部の公園整備を前倒して実施することとなり、計画が見直され、日本平公園基本計画改定、平成 30 年（2020）、山頂シンボル施設、夢テラス展望回廊が設置された。その後、アクセス道路整備、電線地中化、大芝生広場等、順次整備がすすみ、現在、名勝日本平の持つ魅力（訪れる楽しみ、眺める楽しみ）、本質的価値を高める環境整備を順次進めている。